

救護棟カルテ No. 10



令和元年は幼獣の保護件数が例年に類を見ない程多く、初夏から秋にかけての救護棟は、まるで幼稚園さながらの状態でした。

7月中旬の朝、猪苗代町役場職員さんにより、2匹の仔ダヌキが運び込まれました。2匹は猪苗代町内の住宅前の側溝にいたところを保護されましたが、その際には親タヌキはいなかったそうです。

よく見ると仔ダヌキ達は「ヒゼンダニ」による疥癬症にかかっていた。すぐさま治療を開始・・・とはいかない問題がありました。ダニ駆虫薬を投与するには2匹ともまだ離乳前で、投与限界体重にも満たない程小さかった事です。まずは投薬できるまでの体重増加と、長期治療に耐える体づくりが最優先となり、その日から人工保育が始まりました。



(搬入直後の様子。顔面や四肢の先が皮膚病に冒されていました。)

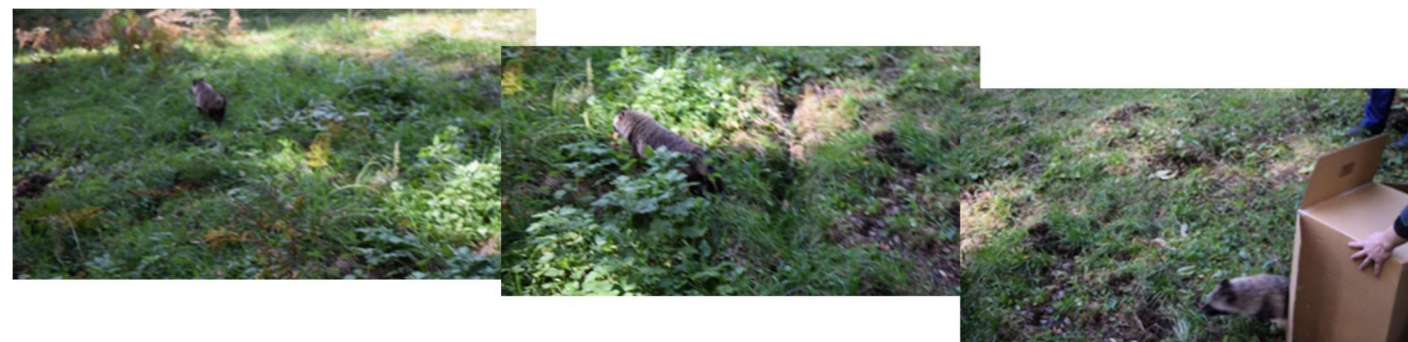
(哺乳の様子。)

しかし看護の甲斐なく、翌日1匹が亡くなってしまい、残った1匹での闘病となってしまいました。毎日体重を量り、下痢に気をつけながら粉ミルクの量を調整し、体重増加にあわせて徐々に離乳に移行していきました。そして固い餌も食べられる程に歯もしっかりと生えてきて順調に成長し、遂に投薬可能な体重まで増えました。投薬と薬浴を皮膚がきれいになるまで繰り返し続けた結果、疥癬症は完治し、隔離治療は終了となりました。

次は野生に戻るための生活訓練です。

隔離治療期間、人との距離が近かったことから「人慣れしていたらどうしよう・・・」との心配は杞憂で、飼育スペースへ放すとすぐに人から逃げ隠れたのです。親に教わらずとも、人に近づかないという本能がきちんと備わっていました。室内スペースから屋外訓練場へ移動した頃には、体もすっかり大きくなりました。また、タヌキは夜行性ですが、この仔ダヌキも日中は身を隠し、夜間に行動する等、野生下でも十分生きていける様子を見せてくれました。

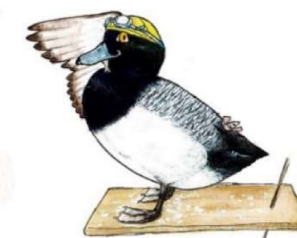
保護されて約4ヶ月後、10月中旬の天気の良い日に、いよいよ放獣となりました。保護して下さった職員さんと一緒に、人里から離れて静かに生きていけそうなところを探しました。場所が決まり箱を開けると、仔ダヌキは一目散に猪苗代の山中へ元気に走り去って行きました。その後ろ姿を見送りながら、保護してからの様子を思い出し、「たくましく生きて行ってほしい」と願わずにはいられませんでした。



(放獣の様子。箱から元気に飛び出して行きました。)

令和2年2月1日 福島県環境創造センター 附属 野生生物共生センター

あだたら 森の回覧板



Vol. 10 冬号

スズガモ



【2月は節分！みんなは豆まきしたかな？】



野生生物共生センターでは、野生動物の剥製やパネルの展示、映像放映等をおこなっており、入館料無料で自由に見学・閲覧できます。事前にご相談いただければ、団体でのご利用や職員による解説などの対応も可能ですので、興味をお持ちの方はお問い合わせください。

詳しくは... [HP](#) [環境創造センター](#) [検索](#)

発行: 福島県野生生物共生センター
〒969-1302
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 67
電話 0243-24-6631
(9:00~17:00 月曜休館日)

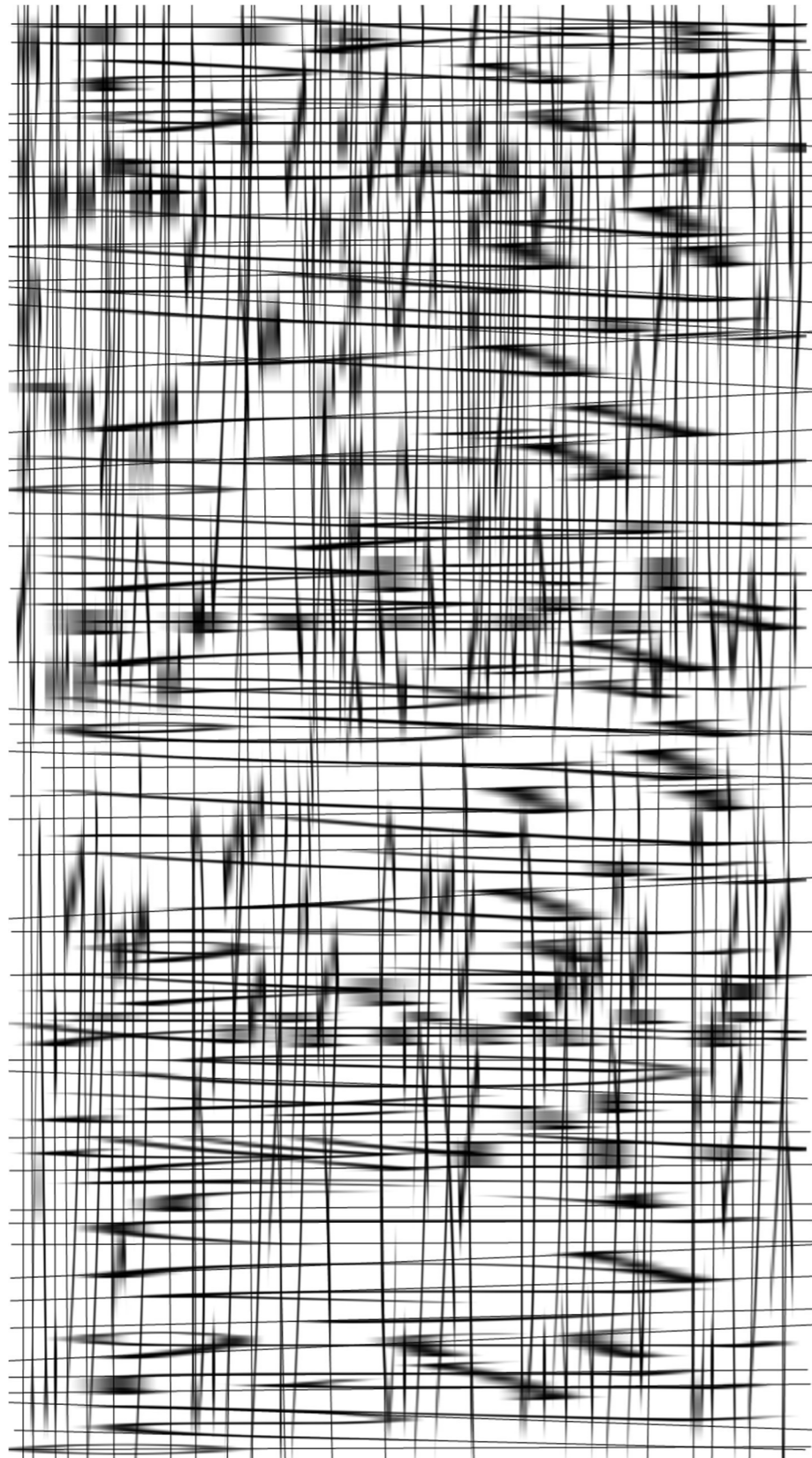
本誌内の文章・画像等の無断転載および複製等の行為はご遠慮ください。

動物クイズラリー

野生生物共生センターにおいて、7月から10月までの期間中、館内の展示を利用した動物クイズラリーを実施しました。双眼鏡を使わないと読めないクイズや、ある角度からしか見えないクイズなど、クイズの隠し場所の難易度が高かったため、親子で協力してクイズを楽しんでいる方が多くいました。410名もの方々にご参加いただき、ご好評いただきました。今回はそのクイズのうち1問を広報誌用にアレンジして掲載します。ぜひ挑戦してみてください。

< 問題 >

下の図の中に問題とその答えが隠されているよ。分かるかな？



💡 ヒント 💡

紙を斜めにして図の下の方から、片目をつぶって見ると問題が見えるぞ！

同じように左側から見ると、答えが分かるぞ！



業務紹介コーナー

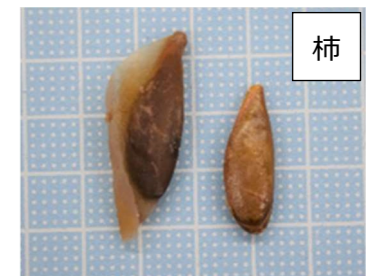
～イノシシの胃内容物調査～

イノシシは植物食を主とした雑食性と言われていますが、実際にどんな物を食べているのでしょうか？今回は、野生生物共生センターがこれまでに協力して実施した、イノシシの胃内容物調査についてご紹介します。

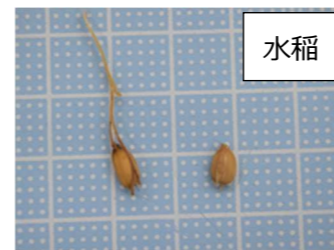
1つ目は、田村市有害鳥獣対策協議会さんと協力して実施した調査です。調査にあたっては県内の各専門家の方々にも協力いただき、2019年10月に捕獲されたイノシシ5頭の胃内容物を調査しました。その結果は表1のとおりです。この調査では、ドングリや栗などの堅果類、柿などの果実類や、水稻などの農作物が確認されました。

表1 胃内容物調査結果

植物質	動物質
堅果類(ドングリ)	昆虫(種不明)
果実類(柿/果皮、種子)	昆虫(アリ)
果実類(マタタビ/果皮、種子)	ミミズ
イネ科(水稻のモミ殻、穂)	タニシ
双子葉類(シロツメクサ/葉、根)	
根部(皮、ひげ根)	



柿



水稻



昆虫



栗

2つ目は、福島県環境創造センター研究部の調査です。イノシシの胃内容物に含まれるDNAを調査することで、イノシシの食性分析を行っています。2016年10月から2018年の3月までに二本松市西部で捕獲されたイノシシを調査した結果、初夏には、サクランボ属(ヤマザクラなど)のDNAが検出されており、みずみずしいサクランボの果実(サクランボ)を食べていると考えられました。秋から冬の間には、堅果類(ドングリ)のコナラや栗などが多くの個体から検出されており、ドングリの種子をたくさん利用していると考えられました。また、この時期には、大豆やハギ属のようなマメ科植物のDNAも検出されていました。



ウワミズザクラ*



マルバハギ*



コナラ*

(※写真提供：環境創造センター研究部)



栗を食べるイノシシ*

今回の調査では、水稻や大豆などの農作物だけでなく、柿や栗などもエサとして多く利用しており、これらがイノシシの誘因になっている可能性も考えられました。イノシシの人里への出没を減らすためには、電気柵やメッシュ柵などで農作物をまもるだけでなく、耕作地周辺の環境整備など複合的な対策が必要だと改めて確認できました。